

「卓越大学院プログラム」中間評価結果

| | | | |
|----------|--------------------------------------|---------------|-------|
| 機関名 | 千葉大学 | 整理番号 | 1902 |
| プログラム名称 | アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム | | |
| プログラム責任者 | 山田 賢 | プログラムコーディネーター | 米村 千代 |

(評価決定後公表)

(総括評価)

- S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

[コメント]

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、人文系大学院教育に関してデジタルヒューマニティーズ人材育成という旗のもと、千葉大学を核として5機関連携した体制が整備されている点は評価できる。しかし、この卓越学位プログラムをどのように強化発展させるかについては、単なる大学院共通講義群としての横展開や情報系の新大学院構想などが、せっかくの卓越した成果の展開につながっておらず、連携大学における継続発展性についても明確な指針が示されていないため、早急な検討が求められる。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、履修学生は卓越大学院の趣旨を非常によく理解し、ヒューマニティーズ×デジタルという新たな領域に挑戦し、修了後にアカデミア以外の地域イノベーター等として活躍することへの高い意欲を示すなど、その成長が非常に期待できる。しかし、意識の高い履修生のアカデミア以外の新たな活躍の場の開拓について、大学側の取り組みは、地域企業との意見交換レベルにとどまっており、卓越した人材の活躍の場の候補の提示としては全く不十分である。この点も改善計画を至急まとめることが求められる。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、各大学における情報系教員の配置や副指導教員体制など、コロナ禍であっても大学を超えた学生間の交流と研究を生み出している点は評価できる。

優秀な学生の獲得については、学部からストレートに上がっている学生数は少ないが、社会人や博士課程からの編入を希望する学生等によって応募学生数は定員を常に上回り、さらに増加しているデジタルヒューマニティーズに対する学生からの期待の高さは評価できる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、大学を超えた質保証のための評価基準が明確化されている点は評価できる。

事業の継続・発展については、千葉大学のみならず、連携大学も含めて本事業成果の継続発展のための事業費の措置など各大学の検討が求められる。